教育問題を総選挙の争点に　2008/11/04 11:03

政治家からも支持の声、相次ぐ

　本日の産経新聞９面「正論」、高崎大学教授・八木秀次氏の「教育問題を総選挙の争点に」の内容を強く支持致します。

＞当初、マスコミの顔色をうかがっていた政治家も町村信孝前官房長官、森喜朗元首相、塩谷立文科相、森山真弓元文相、橋下徹大阪府知事などから支持の声が相次いでいる。

＞中山氏は日教組の「強さ」と言ったが、記事はそれを組織率に置き換えている。そして「『中山説』に合わない」として、組織率も高く学力テストの正答率も高い秋田、富山、福井、静岡、愛知の各県の名前を挙げている。しかしこれらの県は日教組本部が展開するような階級闘争的あるいは反国家的な姿勢とは無縁の穏健で互助会的な組織として知られている。

＞日教組本部発行『日教組　政策制度要求と提言　２００７－２００８年度版』には在日米軍基地の整理・縮小・撤去、自衛隊の縮小・改編、定住外国人の地方参政権、「人権侵害救済法」の制定、ジェンダーフリー、夫婦別姓、性教育の充実などの主張が満載されている。当然、「強い」地域では学校でも子供たちに吹き込まれていよう。

この辺は特に共感する部分です。

　この中山成彬氏の「日教組はがん」発言のその後ですが、月刊誌のWILL12月号では「日教組はぶっ壊せ！」のタイトルで本人の寄稿８頁、同「正論」12月号は「では訊こう、日教組に問題はないのか」という中山氏と八木氏の対談12頁、的場光昭氏の「単一民族否定論の押しつけに異議あり」に８頁を割いて詳報してくれています。是非ご覧下さい。

正論12月号は定価680円、全国の書店で好評発売中です。

　ところで、一般紙やテレビだけを見ている普通の方は、一連の中山氏のとった行動は、衆議院選挙に出ない、出る、再び出ないと心が揺れ、何とも女々しい男というイメージを持った方が多かったようです。幸い、私のブログには後援会に確認したという方が第一報を入れてくれたので、また報道の先走り、印象操作だなと思っていたのですが。

　ちょうど発売されたばかりの「正論」でまさしくその部分を本人が詳しく説明した箇所がありましたので以下でご紹介致します。

再び出馬報道に失望も（八木）
不出馬の考え変わらず（中山）

八木　まさに正論です。ただし、中山さんの進退をめぐり状況が二転三転したことについては苦言を呈さなければなりません。中山さんは国交相を辞したばかりか、次期衆院選には出馬しないと表明された。何もそこまでしなくても一と

思いましたが、反面、ある種の潔さを感じました。しかしその後、前言を翻されたかのような報道があり、失望というか、違う意味で残念でした。
中山　私自身は一貫した行動をとってきたつもりなのですが…。

八木　最初に衆院選に出ないと言われた時は、相当のご決意だったのでしょう?。
中山　それはもう、悩んだ末に決めたことです。次期衆院選は自民党と民主党との天下分け目の戦いです。もし、民主党が勝利して政権をとるようになれば、国家にとって取り返しのつかないことになる。ならば今回はバッジを外してでも、より自由な立場で民主党支援の日教組攻撃をしようと考えたのです。

八木　しかし二週間後、再び出馬の意向を固めて記者会見するとの報道があった…。どうして翻意したのだろうと、私は知り合いの記者を通じて、内幕を取材してもらいました。中山さんは、全国的な人気のある東国原知事を出馬させようとして、自らは身を引こうとされたそうですね。しかし知事が出馬の意思を示さなかったため自民党宮崎県連は公募で後継を決めることにした。公募とは通常、透明性を高め、政治に新しい風を吹き込むような人材を発掘するために行われます。ところがこの時の公募には土壇場で古株の大物政治家が名乗りを上げ、選考前からこの政治家に決まることが分かってしまった。中山さんはその時、それでは民主党には勝てない。そんなことをさせるために辞めたのではないと、悲憤されたということですが…。

中山　私というより、私の支持者の中に、大変怒っておられた方がいたのは事実です。公募が締め切られた翌日、地元の選挙区支部と後援会の方々が集まり、やはり次期衆院選に出るべきだと大変な騒ぎになった。そこで、私は古賀さん(自民党選挙対策委員長)に電話をかけ、地元の様子や公募の状況などについて説明しました。すると古賀さんから「東京に来てほしい。明日の朝十時に党本部で出馬表明の記者会見をセットした。自分も同席する」と言われて…。結局、いったん表明した不出馬の方針をわずか二週間で変えるわけにはいかないと断ったのですが、この時の私の対応が、あるいは周囲に誤解を与えたのかも知れません。しかし、少なくともあの時の報道はまるで真実を伝えていない。

八木　えっ、記者会見をセットしたのは古賀さんだったのですか?。マスコミ各社は、古賀さんが中山さんに出馬を断念するよう説得したと報じていましたが、まるで逆ということになる。
中山　あの報道に一番驚いたのは私です。私の方から出馬の意向を示したことになっているのだから。その翌日、地元の報道陣に「不出馬の考えに変わりはない」と説明したのですが、全く取り上げてもらえず、私に批判的な県連関係者らの「中山は一人芝居をしている」「付き合いきれない」などのコメントばかり…。
八木　それが事実とすれば驚きです。ところで、今後はどんな活動を？。
中山　理不尽な批判にさらされ苦しみましたが、今は何というか、内なる闘志はふつふつと沸き上がってくるような気分です。繰り返しになりますが、今回の私の行動は、自民党の勝利を確実にするためです。そして日教組を排し、教育現場を正常化する運動に、より積極的に取り組むつもりです。
（正論12月号227-228ページから引用）

カテゴリ: コラむ　フォルダ: 指定なし　コメント(0)

タグ: 中山成彬　八木秀次　日教組はがん　WILL　正論